地域に“こころ” と“からだ”のオアシスを！

本会の活動場所は東京都府中市の西部、多摩川と浅川が合流するあたりの多摩川左岸にある細長い緑地である。今は水は流れていないが、江戸時代から 50 年ほど前まで利用されていた農業用水路の跡である。10 数年前は産業廃棄物などのごみ捨て場と化していたが、この中に咲く数輪のヒガンバナを目にしたことが保全活動のきっかけとなった。

現在、この一帯は工業地域に該当し、住宅やマンション、工場や事業所が隣接する。この環境下、住民のみならず通勤や訪問者達の“地域のオアシス”とするのが目指す将来の姿である。

この実現のために、次の四つを活動の柱としている。
1.野草・樹木の自生環境の保全
2.散策・憩いの空間づくり
3.子どもの自然学習環境づくり
4.農業用水路としての歴史の伝承

現在、会員は小中学生５人を含む３２名であり、毎月第三日曜日午前中が活動日であるが、自由参加が基本であり、“できる人が/できる時に/できる範囲で”を合言葉としている。

活動の原資は５つに依っている。
①会員によるバザー売上金
②会員からの個人寄付金
③近隣自治会からの協賛金
④セブンイレブン記念財団助成金
⑤府中市から借用する用具・備品

活動内容は、個人の自主的なごみ拾いや除草を基本とするが、いくつかは季節に合わせ、恒常的に参加者全員で分担する。

▶晩秋から初春にかけてヒガンバナを株分けする。本会の発足前から継続している活動の原点である。今では周辺から諸団体が見学・鑑賞に訪れるまでになり、地域の名所になりつつある。

（左）株分け作業　(右)全域への広がり

▶台風で倒れた木、伐採した丸太を細断し、椅子やベンチ、杭として遊歩道沿いに配置する。

（左）腰掛づくり　(右)親子で杭うち

▶当緑地内で生まれたドングリを拾い会員が自宅の庭で養生してきたコナラ、クヌギの苗を植樹をする。

（左）市長とともに　(右)二人で植樹

▶年末に落ち葉を拾い集め、市の「落ち葉銀行」に提供し、後日腐葉土と交換する。 毎回 100 袋ほどになる。

▶今では目にしなくなった野草の復活と捕植に取り組む。会員の意見により①カタクリ②セツブンソウ③フクジュソウ④ニリンソウ⑤フジバカマの５種を選んだ。

▶自生する東京都絶滅危惧３種「ウマノスズクサ」「キツネノカミソリ」「カンゾウ類」を保護する。ウマノスズクサは希少種ジャコウアゲハ蝶幼虫の食草である。

このような目で確認できるもの以外に定性的な成果もある。

①行政や他団体との連携や相互協力が進み、こうしたつながりが「防災」「防犯」「福祉」に向けた地域の輪になりつつある。
②活動を通した人間関係は、地域の生活や環境上の諸問題を緩衝している。
③行政連携で整備された自然の空間であり特に近隣高齢者施設からの散策が格段に増えた。

以上